

第 59 回日本作業療法学会に参加して

本郷 咲夏

神奈川県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科

1. はじめに

2025年11月7日（金）～9日（日）に第59回日本作業療法学会が香川県高松市のサンポートホール高松・かがわ国際会議場・あなぶきアリーナ香川にて開催された。今回、現地にて発表および参加した。

2. 学会の概要

学会のテーマは「作業療法の価値を高めるエビデンスの創出」であった。従来の基調講演とシンポジウムに加え、教育講演4題や教育セミナー21題が企画された。各分野におけるエビデンスの発信と活用、そしてその現状と課題について議論の場が設けられていた。また、アリーナ会場ではポスター発表が行われた。

3. 所感

今回、切断患者の復職までの経過に関してポスター発表をさせていただいた。会場では、同様の経験を積まれた先生方と意見交換を行った。介入時の工夫や困難であった点を振り返りながら議論を重ねることで、本症例への理解をより一層深めることができた。加えて、自身が直接携わる期間以外の急性期や生活期の視点を学べたことは、作業療法士として果たすべき役割を改めて考える貴重な機会であった。様々な分野におけるポスター発表を通して、自身の立場であればどのような介入を行うかについて、日頃の臨床経験と照らし合わせながら検討した。経

験年数の近い先生方との交流や発表は、情報共有にとどまらず、自身の臨床実践を見つめ直すきっかけにもなった。

学会長講演は、「作業療法の価値とアウトカム、そしてそれを明らかにする手法」がテーマであった。現在のアウトカムを整理しつつ、作業療法の価値を示す手段について提示されていた。海外においては、作業療法がWell-being（良い人生を生きること）の向上に有効であることを、PRO（Patient Reported Outcome：患者報告アウトカム）を用いて示す研究が報告されている。また、作業療法の介入時に対象者のみならず家族に対してもPROを用いて、作業療法の有効性を示している。自身がこれまで用いていた評価は、セラピスト主導の客観的評価が大部分であった。講演の中でも提示されていた対象者が主体となる評価方法やMTDLP（Management Tool for Daily Life Performance: 生活行為向上マネジメント）についても着目し、対象者や家族が今の生活、今後の人生をどのように捉えているかを把握する必要性を認識した。対象者の身体的機能以外の側面も可視化することで、対象者の幸福や喜びに還元していきたいと考える。

特に印象的だった教育セミナーは「届けたい教育を地域とともに創る - 学校作業療法の現状と発展 -」である。セミナー内では、学校の抱える課題を作業療法士の専門性を活かした作業遂行分析によって解決に導いた事例が紹介された。事例では課題の背景と強みに焦点を当て、周囲の人（先生・家族・友達）や環境にも好影響を与えていた。作業療法が個人だけでなく、個人を取り巻く環境にも関与することを実感できる非常に興味深い内容であった。学校や地域に対して課題解決の視点を提供し、関係者と

神奈川県総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション部 作業療法科
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516

協働しながら解決に向けて取り組むことは、作業療法士に求められる重要な役割の一つであると感じた。本セミナーは学校作業療法を中心とした内容であったが、課題解決における視点は、日頃の臨床にも応用できるものであり、今後の参考としたい。

本学会に参加して得られた新たな知見や経験は、これまでの臨床実践を振り返り、これからの介入や

支援をさらに高めるための重要な学びであった。学会で得た知見を活かして、対象者や家族の生活全体に目を向けた包括的な支援を実現できるよう努めたい。加えて、学会参加を通して他施設の介入方法や最新の知見に触れることで、作業療法士として専門性や介入の幅を広げ、継続的に学びを深めていきたい。